

あ ゆ ち
Ayuchi
[No.91/2022.1]



「生態学」 神村泰代さん作

吉祥もたらす瑞獣

新しい年が始まりました。今年はどうな一年になるのでしょうか。幸多き一年となることを願って、「めでたい」といわれる

空想上の生き物「瑞獣」をご紹介します。

中国の思想から誕生した、瑞獣

瑞獣という言葉聞いたことがあるだろうか。「瑞」という文字には、「めでたい、喜ばしい」という意味があり、瑞獣は吉祥が起る何かの前兆として現れる、特殊な力を持った空想上の動物達を指す。

ルーツは、徳の高い君主により優れた政治が行われていると、天が珍しい動物や植物を出現させるといって、古代中国の思想。めつたに人前に現れることはない。そのため、その姿を見た人はそれだけで凶事が祓られるとも言われている。

あまたいる瑞獣の中で別格とされているのが、四大瑞獣と呼ばれる龍、鳳凰、麒麟、霊亀。この世のすべての動物を鱗のある

鱗、羽のある羽蟲、獸類のような毛のある毛蟲、固い殻や甲羅のある甲蟲の四つに分類した時の、それぞれの長だ。四神または四霊ともいう。古代中国の人々は、動物というよりも神に近い神秘的な存在として捉えていたようだ。

また、よく耳にする青龍、朱雀、白虎、玄武も方位を司る靈獣として、四神と呼ばれる。陰陽五行説により、この四神の中央に麒麟や黄龍が加わることもある。

ちなみに、四大瑞獣のほかには、白澤、九尾の狐、鸞、獬豸、一角獣など百以上のめでたいと言われる動物達が名を連ねている。

日本に伝わるのは、弥生時代の頃

瑞獣が日本へ渡ってきたのは三世紀頃。三角縁神獸鏡などと共に入ってきたのではないかとされている。時代でいうと、弥生時代の頃だ。銅鏡自体は、弥生時代の中期終わり頃に日本にもたらされ、瑞獣の姿が描かれた神獸鏡もこの頃までには伝わっている。

最初にモノとして伝わり、そこに描かれた不可思議な動物達が装飾古墳等に現れるのは、六世紀後半。青龍、朱雀、白虎、玄武の四神や天文図が高度に表現され

四大瑞獣のプロフィール



りゅう
龍

鱗のある動物、鱗蟲の長。背には八十一枚の鱗があり、体は大蛇のよう。頭には二本の角、顔は長く耳があり、長いひげを持つ。雨を司る精霊であり、中国では王権の象徴として用いられ、特に皇帝を表す龍は五本爪と決められていた。

ほうおう
鳳凰

鳥のような羽をもつ動物、羽蟲の長。雄は鳳、雌は凰という。嘴は鴉、首は蛇、背は亀、尾は魚、文様は龍に似ていて、五彩を放つ羽をもつ。鳳凰が出現する時、聖天子が表れ泰平をもたらせる。

きりん
麒麟

毛のある動物、毛蟲の長。麟とも呼び、特に雄を麒、雌を麟という。鹿に似た一角獣で、牛の尾、馬の蹄、五彩を放つ体をもつ。仁徳を備えた仁獣。仁徳を備えた王の治世には姿を見せ、殺生を好む王の治世には姿を隠す。

れいき
霊亀

固い殻や甲羅をもつ動物、甲蟲の長。年齢が百千年に達すると五色を備え、神亀となる。治水の才ある帝王が生まれると現れ、甲羅に水脈が刻まれ治水を助ける。また吉兆を予知するとされ、腹甲は古いにも用いられた。

たキトラ古墳などは、大化の改新の政策として出された薄葬令以降の七世紀から八世紀初頭のものになる。ちなみに、薄葬令とは、身分に応じて墳墓の規模などを制限した勅令のことだ。

ということ、瑞獣が初めにモノとして伝わるのが、弥生時代。思想も含めて伝わるのは古墳時代ということになるだろうか。

ちなみに、同じ弥生時代でも日本で独自に作られていた銅鐸には、カエルやトンボなど生活に身近な動物が描かれていた。

筒井町神皇山車十二支の水引幕



狛犬は瑞獣!?



邪気を払い、聖域を守る鎮獣。中国の獬豸と同一視されることもある。

権力の象徴から庶民の縁起物へ

瑞獣は意外と日常のふとしたところで触れられる。例えば、神社仏閣の建築物の彫刻や障壁画、祭りの山車や神輿、美術工芸品など。また、相撲の四股名や小説のタイトルなどにも、龍や麒麟などの文字が用いられることが多い。



瑞獣はもともと、中国では君主などの権力者が正当性をアピールするものとして、建物や衣装などのモチーフとなっていた。そしてそこには、道教の思想に基づく世界観が創り出されていた。

そういった世界観が、中国文化と共に伝わり、権力者達は建築物を



鳴海表方祭り作町山車前面彫刻 獅子

神のイメージに昇格した、能の物語

昔、中国の揚子江の側の金山というところに、高風という名の、親孝行な若者が住んでいた。

ある日、「酒屋になれば大金持ちになれる」という夢のお告げにより、酒を売り始めた。ある時から毎日、繁盛する店に、どれだけ飲んでも酔わない客が訪れる。不思議に思い名をたずねると、「水中に住む狸々だ」と言って去って行った。

高風が、酒壺を川のほとりに備えて一晩待っていると、突然、狸々が現れる。一緒に酒を飲み、舞を舞い、狸々は高風の親孝行ぶりをほめたたえた。そして、泉のように尽きることのない酒壺を与え、再び水中へと帰って行ったのだった。



紙張子の頭と、竹の籠のような胴体に、どてらまたは袴を着る。被ると、高さ約2m40cmの大人形になる。

大狸々はゴリラのことを指す。

ちなみに狸々はオランウータンのことを、中心に南区、東海市、大府市、豊田市などの祭りで見られる。

七(一七七八)年の「鳴海祭礼図」、文政十三(一八三〇)年の「尾張年中行事絵抄」にも見られる。その姿は江戸時代から変わらない。鳴海を中心としたこの一帯は、江戸時代より酒造業が盛んで、お酒の神様と言われる狸々は特に人気を集め、大切にされていた。現在、狸々大人形は、名古屋市長緑区を中心に南区、東海市、大府市、豊田市などの祭りで見られる。



子供達を追いかける狸々

江戸時代に天然痘が流行った時には、赤いものを置けば、病魔は逃げていくという迷信があった。そこから、狸々の赤い顔は病魔を退散させると人気に。魔除けとしての役割もプラスされ、狸々にお尻を叩かれた子供は、一年間病気になるまいと言われている。

江戸時代に天然痘が流行った時には、赤いものを置けば、病魔は逃げていくという迷信があった。



有松東町布袋車 龍と亀の刺繍



はじめ様々な物に装飾として彩られるようになる。庶民にも伝わり、最も親しまれるようになるのは、江戸時代だろうか。



瑞獣について教えてくれた名古屋文化財保護室の学芸員、額綱茂さん。瑞獣は神様かという、そうではない。では動物かという、そうでもない。はっきりしない存在ですね。ただ、自分達の力ではどうすることもできない時の心の拠りどころとして、大切にされてきたものだと思います。

有松東町布袋車 大幕正面

権力者達が建立した神社仏閣などで瑞獣の姿を目にする機会も増え、「瑞獣は何か縁起の良い物だ」という共通認識が生まれ、広まってくる。お祭りの時などには、瑞獣が描かれた札や彫り物などが売られ、さらに庶民の生活の中へと浸透し、親しまれていく。それぞれの時代で権力と結びつき、重宝されていた瑞獣。現在は、小説やアニメなどでキャラクター化されることもあり、より身近で楽しめる存在へと変わってきている。だが、その神秘性が失われることはない。

愛知の祭りで出会える吉祥動物

鳳凰や龍、獅子、鶴亀など瑞獣をはじめ、おめでたいもので埋め尽くされている山車や神輿。その中に、真っ赤な顔をした猿のような、人間のような人形を見かけることがある。これは、海の中に住み、言葉が話す霊獣で、名前を狸々という。狸々が中国より伝わってから鎌倉時代くらいまでは、単なる言葉のわかる猿のような生き物というイメージだった。そのイメージを一新したのが、能の演目。酒に浮かれて舞い謡う姿がイメージアップにつながり、いつの間にか、お酒の神様であり、親

鳴海祭礼図「尾張年中行事絵抄」(国立国会図書館より)



孝行のシンボルになっていた。陽気な神様として、祭りなどにからくり等の人形として登場するようになるが、こゝ愛知の鳴海を中心とする緑区や南区の地域の狸々は、ひと味違う。狸々大人形といつて、いわゆる着ぐるみだが、祭りの行列を先導して練り歩く。狸々大人形の姿は、宝暦七(一七五七)年に描かれた文献「尾陽村々祭礼集」に初めて登場。その後も安永



狸々について教えてくれた笠寺狸々保存会の狩野良雄さん

祭りでは大きな狸々が動き、追いかけてくるのが面白い。狸々は神様なのに、子供達にバカにされたりもして、とても親しみやすい神様ですね。

子供達と一緒に遊ぶ狸々は、一つの祭りの風景を創り上げ、長年人々に親しまれ、楽しまれている。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のために、私達は今、様々な制限の中で毎日を過ごしています。それは、生徒達も同様です。

現在私が会長を務めている愛知県高等学校文化連盟（高文連）などで、高校生の様々な文化活動を見てきましたが、コロナ禍の二年間、生徒達は本当に制限のある中で頑張っています。文化部は室内での活動になるので、どうしても感染のリスクが高くなります。消毒や検温をし、マスクを付けてソーシャルディスタンスでの練習はもちろん、部活動以外でも食事は向き合わずに黙食。高文連が主催となって年一回開催する『アートフェスタ―愛知県高等学校総合文化祭―』においても、展示部門は開催できましたが、発表部門については二〇二〇年は中止、二〇二一年はウェブ配信となりました。

なかなか思い通りに活動ができない状況でも、生徒達は不平不満を言いません。コロナの感染拡大防止ということをきちんと受け止めて、クラスターを発生させてはいけないと気を遣いながら、どう自己表現



をしていくのか。できる範囲の中で一生懸命工夫して活動をしています。

私は、高校時代に吹奏楽部に所属していましたが、勉強よりも部活動が楽しくて（笑）。先輩達が県大会に出場するような学校でしたので、大会に向けてかなりのエネルギーを注いでいました。

思いつき部活動を楽しんでいましたね。それが当たり前でしたが、今はその当たり前ができません。「こんな大変な時に発表させていただき、ありがとうございます」と、常に感謝の気持ちを述べるのです。そんな生徒達の姿を見ると、本当に健気で。

生徒達に願っていることは、「より高く、より大きく、より強く」ということ。様々なことに、時には無理をしても殻を破ってチャレンジしてほしいと思いますが、コロナ禍の今はちよつと言いつらいですね。ただ、より高いところを目指すことはできるので、向上心は常に持ってほしいです。

私の好きな言葉に「人事を尽くして天命を待つ」があります。どんな結果になっても受け入れられるくらい、しっかりと練習をして準備をする。物事に真剣に向き合

えば、自ずと良い結果がついてくる。というのを、部活動などを通して経験することができました。このことから、自分が納得いくまで行うことの大切さを、生徒達にはずつと伝えていきます。

また、人の関わり方を学ぶには、部活動は最適ですね。先輩や後輩という縦のつながりがあり、年齢の違う人との人間関係を構築できます。そういったコミュニケーション能力は、授業だけでは身につけられないものです。

好きなことに打ち込み、友情も育めた高校時代。特に部活動は私にとって一番の思い出になっています。みんなで一つのものを創り上げていく過程で、様々なチャレンジをしました。その経験は、大きな力となっていて、その後の人生でも活かされています。

この経験から、生徒達にも好きなものを見つけて、全力で取り組んでほしいです。勉強でも部活動でも、何でもいいんです。夢中になれるものがあれば、他で上手くいかないことがあっても、充実した生活が送れるのではないかと思います。

頑張ることは大切ですが、気分転換も必要です。私はミュージカルや歌舞伎鑑賞などが好きで、観に行きリフレッシュしています。役者さんの演技や衣装、舞台装置などどれ

もすばらしく、生の舞台から発せられるエネルギーは、ものすごいものがあります。

高文連でも、生徒達に普段は触れることの少ない歌舞伎や狂言、ミュージカルを低価格で鑑賞できる機会を提供しています。観賞の際には、必ず歌舞伎教室や狂言教室などの時間を取っていただき、より伝統文化への理解を深められるようにしています。観賞した生徒達は興味をもつて、歌舞伎や狂言について調べたりしていますね。視野を広げられるきっかけの場を作れるのも、愛銀教育文化財団さんからの助成のおかげで、意義深く思っています。

我慢が強いられたコロナ禍の二年間で、生徒達は考える力、工夫する力がとても養われたと思います。学校行事などでも、生徒達に自由に考えさせると、すごく面白いアイデアが出てくるんですよ。私達では思いつかない、驚くようなものが。そういった創意工夫や成功体験というのは、とても大切なことです。コロナが終息したら、生徒達には「好きなように、思いつきチャレンジしてみなさい」と言いたいです。成功体験も失敗体験もたくさんさせてあげたいですね。これからの時代を創っていく生徒達の成長を、側で見られるのはとても楽しく、充実しています。――談――

真剣に向き合えば、 自ずと良い結果はついてくる。

嶋田麻知代

（愛知県高等学校文化連盟会長
愛知県立瑞陵高等学校校長）



■嶋田麻知代 プロフィール

1962年名古屋生まれ。相山女学園大学家政学部食物学科卒業。佐屋高校、古知野高校での教諭を経て、2005年愛知県教育委員会へ。2013年に津島北高校、2016年に古知野高校の校長、2019年より現職。趣味はミュージカル・歌舞伎鑑賞、ガーデニング。書道師範の資格を持ち、定年後にかな文字の読み書きを習うことを楽しみにしている。

ヘルマンハープという楽器をご存じだろうか。ドイツ人のヘルマン・フェー氏が、ダウン症の息子のために作った弦楽器だ。

このヘルマンハープと神谷美紀子さんが出会ったのは、教員退職後の活動として、子供達への読み聞かせをしたいと考えていた頃。効果音に使える、ジャランと弾けるハープみたいな楽器を探していた時のことだ。

「初めてその音色を聞いた時、とてもきれいで、すぐに飛びつきました。ただ、音楽が苦手な私が、弾けるようになるのかな、って」

と神谷さん。だが、そんな思いは杞憂に終わる。初めての体験で、曲が弾けたのだ。

ヘルマンハープは、演奏をする時に楽譜を弦と楽器の表板の間に挟む。演奏方法は、楽譜に書かれた音符玉を上から下へ順番に弾くだけ。音符が読めなくても人差し指一本で、誰でも簡単に曲を奏でることができる。曲のジャンルは童謡、ポップス、クラシックと幅広い。

「ヘルマンハープは聴いている時はもちろんですが演奏していると落ち着きますね。自分を自分で癒せる楽器だと思います」
実際に障がいを持つ子供が体験をした時、



最初は力いっぱい演奏していたのがだんだん穏やかになり、音色も変わってきたという。その癒し効果と指一本で弾けるところが、バリアフリー楽器とも言われる所以なのだろう。神谷さんは現在、放課後子供教室や老人施設、発達障害児の専門病院、障がい者施設などを訪れ、精神的に体験教室を開催。そこで痛感したのが、横並びで体験することの大切さだ。

「横に並んで、というのはすごく安心するんですよ。隣で演奏している姿を見ながら真似をすることができ、自然に演奏ができるようになります」

見よう見真似で弾くということが、体験する人達のストレスにならず、あつという間に弾き方を覚えていくという。だから神谷さんの体験教室は、「教える」というスタンスではなく、「一緒に楽しむ」ことを、何よりも大切にしている。

「縁があつて、体験者の皆さんと一緒に、楽しい時間を過ごさせています。その一瞬一瞬を大切にしていきたいです。そして、ヘルマンハープという楽器を、もつとたくさんの人に知ってもらいたいですね」



優しい、癒しの音色を届けたい。 バリアフリー楽器の「ヘルマンハープ」。

ヘルマンハープの体験教室活動
神谷美紀子さん
第31回助成(個人)

日本ヘルマンハープ振興会・ハーピスト会員。刈谷市を中心に、小学校の放課後教室、市民館、デイサービス施設等で演奏会と体験教室を積極的に開催。年2回の刈谷ハイウェイオアシスでの演奏会や、刈谷市文化協会のイベント等にも参加。2022年には、尺八とのコラボ演奏会の開催を予定している。夢は、「ストリートピアノのように、街角などにヘルマンハープを置き、いろいろな人に自由に弾いてもらうこと」と教えてくれた。



道楽同盟は、大学の同級生であった佐竹佑太さんと増成峻平さんによる、現代美術のアーティストユニットだ。展示会場となるのは、地域活性化を目指す商店街や街の一角。愛知県内の様々な場所で空間全体を使った、遊び心あふれる作品を発表し続けている。

「こだわっているのは、地域の記憶を呼び覚ますことです。だから、地域の人達をどうしても巻き込んでしまいますね(笑)」

と佐竹さん。作品づくりでまず行うのが、フィールドワークだ。商店街を散策していると、閉店などで使われなくなった建物や、埃を被ったモノ達に出会う。また、そこで暮らす方々に話を聞けば、思い出話に花が咲き、尽きることがない。そういったコミュニケーションから、アイデアが生まれてくる。

「作品の素材になるのは、捨てられるのを待つばかりのモノ達。何かのカタチを持たせることで、一瞬だけでも息を吹き返せます」
作品づくりにおいて、彼らが主体になることはないという。人々の記憶を基に、そこにあるモノを使い、人々の意見を探り入れ創り上げていく。その過程は、もしかしたら



ToPPaPPo in 香風溪

懐かしさに包まれた、記憶の旅となっているのかもしれない。

「展示会は一過性のものだから、作品が輝きます。その代償として待ち受けているのが、展示後は消えてなくなるという運命。でも、作品はもちろん、経験したことは記憶に残っていくと思っています」

創造、消失、記憶という一連がアートであり、時間が限られているからその魅力を、佐竹さんは教えてくれた。

偶発的に作品と出会ってもらうことが理想という、道楽同盟の作品はユニークだ。例えば、愛知県美術館の地下二階南側の階段デッドスペースに、ピアノ線で繋いだキューブを配置し、ピンポン玉を転がしてみたり。香風溪などでは、観光客に落ち葉を集めてもらって、発射させてみたり。思わず、「うん!?!」と足を止めてしまう。

そんなアートの興味のない人達の、ふとしたリアクションが嬉しいという。

「楽しんでもらいたいという思いが、すべて！アートの便利屋ではないけれど、呼ばれればどこへでも行き、力を発揮します。目指すのは、まちのアート屋さんです」



アクアベース誠 (2014 刈谷アートフェスティバル)



Douraku Doumei Flag Project (ONGAESHI 国際美術交流展/ドイツ)



みちしるべ (REN-CON ART PROJECT 連繋する現代アート)

地域の人々を巻き込んで——。 記憶が蘇り、新たに記憶に残る作品づくり。

現代美術のアーティストユニット
道楽同盟
第29回助成(団体)

2010年に参加した、西尾城下町芸術祭「紙一重」で、選んだ展示場所が同じであったことから、共同制作することになり結成。2014刈谷アートフェスティバル(2014年)、ONGAESHI国際美術交流展(一宮市/2014年、ドイツ・ブレイメン/2015年)、アーツチャレンジ2018(愛知県芸術文化センター/2018年)など、様々な地域のアート事業に参加。今後も、人が滞留するよう楽しい場、空間づくりを目指していく。

佐竹佑太さん



2021年 9月

- 齊と公平太さん(美術制作) 第31回助成・個人
個展「断絶・プロット・生活」
〔See Saw gallery + hibit(名古屋市瑞穂区)〕

2021年 10月

- Office KAN(演劇) 第28回助成・団体
戦国ミュージカル「霸王の道」〔昭和文芸小劇場(名古屋市昭和区)〕
- 旭如会(琵琶演奏) 第22回助成・団体
第五十三回琵琶の会「土岐の麒麟」『名古屋市民芸術祭2021』参加公演〔名東文化小劇場(名古屋市名東区)〕
- 劇団天白月夜 第31回助成・団体
第3回定期公演「月と森のソネット」～夏の夜の夢
〔天白文化小劇場(名古屋市天白区)〕
- 中野金弘さん(地域劇団の指導・育成) 第8回助成・個人
2021 青塚うた語り 野外コンサート「古代の風に祈りを込めて」
企画・構成・演出〔青塚古墳史跡公園(犬山市)〕
- プロジェクト SANFA(舞台制作) 第32回助成・団体
マッピング DE シェイクスピア「The Tempest」
〔名古屋市青少年文化センターアートピアホール(名古屋市中区)〕

2021年 11月

- 木曜座(演劇) 第18回助成・団体
第35回木曜座演劇公演「見果てぬ夢」
〔東海市立文化センターホール(東海市)〕
- 足助ゴエンナーレ実行委員会(文化イベント) 第27回助成・団体
「百里を行くものは九十里を半ばとす」〔白鳥公園開園30周年を記念したアートイベントの企画運営〕〔白鳥庭園(名古屋市熱田区)〕
- 旭如会(琵琶演奏) 第22回助成・団体
ランチタイム名曲コンサート2021「筑前琵琶八州流名曲の調べ」〔宗次ホール(名古屋市中区)〕
- コラボックル(打楽器とピアノのアンサンブル) 第32回助成・団体
ランチタイム名曲コンサート2021「3人とは思えない驚きのサウンド」〔宗次ホール(名古屋市中区)〕
- 劇団天白月夜 第31回助成・団体
『てんばく文化祭』に「朗読劇」で出演
〔天白文化小劇場(名古屋市天白区)〕
- おもちゃばこキネン合奏団 第31回助成・団体
「おもちゃばこキネン合奏団 オンライン演奏会」生配信
- 松本幹永さん(立体造形) 第6回助成・個人
松本幹永展「虚実ノ皮膜～ひらいて むすんで～」
〔なうふ現代(岐阜市)〕
- 神村泰代さん(アート作品制作) 第31回助成・個人
「町を紡ぐ 景色を織る 日々を縫う その手を纏う」長者町コッ
ンプロジェクトチーム+365wishes(神村泰代)
〔長者町コッペンビル1、錦二丁目長者町エリア(名古屋市中区)〕
- 水野沙織さん(クラリネット演奏・指導) 第32回助成・個人
水野沙織 クラリネット2ndリサイタル ～ブラムスからの贈り物～
〔ザ・コンサートホール(名古屋市中区)〕
- 半田少年少女合唱団 第32回助成・団体
第42回定期演奏会(半田市福祉文化会館雁宿ホール(半田市))

2021年 12月

- イミック新子(国際文化交流、絵画作品の発表) 第32回助成・個人
イミック新子 個展 一旅に焦がれて―
〔ギャラリー名芳洞(名古屋市中区)〕

仲間達の近況メモ

- STRINGS(演劇) 第32回助成・団体
「向こう横丁の牛鍋屋」
〔名古屋市昭和文芸小劇場(名古屋市昭和区)〕
- 新城吹奏楽団 第6回助成・団体
第93回定期演奏会〔新城文化会館大ホール(新城市)〕
- 西村一成さん(絵画制作) 第20回助成・個人
西村一成展「メクラブに噛まれて」
〔ハートフィールドギャラリー(名古屋市中区)〕
- 大橋敏彦さん(金工) 第3回助成・個人
第51回 あかね会工芸展 出展
〔愛知県美術館ギャラリー J1室(名古屋市東区)〕
- コラボックル(打楽器とピアノのアンサンブル) 第32回助成・団体
結成20周年記念 クリスマスコンサート2021
〔碧南市芸術文化ホール(碧南市)〕
- 菅野泰史さん(現代美術) 第15回助成・個人
静思と手探 菅野泰史×小林花子〔ギャラリー K(東京都)〕
- 森田 朋さん(銅版画制作) 第32回助成・個人
森田朋 銅版画展「イルフェボウ(三重県桑名市)」
出展 Print for Sale〔ガルリラベ(名古屋市昭和区)〕
- 日本の演劇人を育てるプロジェクト 新進演劇人育成公演
演出部門「かもめ」に出演〔千種文化小劇場(名古屋市千種区)〕
- 平塚直隆さん(劇作・演出・役者) 第16回助成・個人
末吉康二さん(演劇) 第27回助成・個人
廣瀬菜都美さん(演劇) 第32回助成・個人

書籍・会報誌等の発行

- 名古屋郷土文化会 第7回助成・団体
8月…「郷土文化」第76巻第1号発行
- 愛知歴史研究会 第7回助成・団体
8・10月…「あいち歴史研会誌」第171・172号発行
- 小牧市文芸協会 第2回助成・団体
9～11月…郷土文芸誌「駒来」第596～598号発行
- はんだ郷土史研究会 第19回助成・団体
9・11月…「はんだ郷土史だより」第98・99号発行
- まつり同好会 第25回助成・団体
9・11月…「まつり通信」615・616号発行
- 長久手市郷土史研究会 第13回助成・団体
9月…「胡牀石」第58号発行
- 野田史料館 第1回助成・団体
9月…「野田史料館報」第161号発行
- 守山リス研究会 第19回助成・団体
9月…「リス研通信」NO.5318～5337発行
- 江南郷土史研究会 第3回助成・団体
10～12月…「江南郷土史研究会会報」512～514号発行
- 加納 誠さん(郷土史) 第16回助成・個人
10月…「道徳200年」発刊
- ため池の自然研究会 第26回助成・団体
12月…「ため池の自然」No.62発行

※ここには事務局に入った連絡先をまとめて掲載しました。連絡状況によって、掲載のタイミングがずれる場合があります。ご了承ください。今後も皆さんの活動状況をお知らせいただければ幸いです。

「目標は、全国制覇です！」
力強く宣言したのは、愛知高校ハンドボ
ル部のキャプテン、大澤亮介君。そして、中
学時代に達成できなかった、全国という
夢にチャレンジしたくて愛知高校を選んだ
という小坂井瞭君。この二人を含め部員の
多くが、愛知高校でプレーをしたくて入部し
た経験者だ。



「勝ちたい」という全員の気持
ちが強く伝わってくるという日下
照方校長先生の言葉の通り、一丸
となって励む練習では大きな声か
飛び交い、その熱量に圧倒される。
ハンドボールは、走る、跳ぶ、投
げるの要素が揃った、スピード感あ
ふれる迫力満点のスポーツだ。投
げるまでの駆け引きが面白く、あ
る程度のコントラクトがOKなこと
から、空中の格闘技とも言われて
いる。
とにかく攻守の展開が目ま
ぐるしい。速いテンポで進む試合で勝つために
は、リアルタイムで自分達で課題を見つけ、
修正していく力が必要だと、監督の川瀬秀一
先生。

「指示待ちにならないためにも、生徒達に
は時間があれば話し合い、何が必要かを考
えるように伝えています」
チームトークの大切さを、生徒達も実感し
ているのであろう。練習でよく見られたの
が、輪になって話し合う姿。
言われる前に、全員で改善点や課題点を
考えて動けることが、現在のチームの強みだ
と、大澤君と小坂井君は教えてくれた。積
極的に意見を出し合い、切磋琢磨
することができ、良いチームづくり
ができているようだ。
大会で勝ち上がっていく時の
生徒達の成長は、目覚ましいも
のがあるという。手を離れ、自
然に強くなっていくと話す川瀬
先生の最終的な願いは、自立で
きる人間になってもらうこと。
「生徒達の本当の勝負は、社
会に出てからだと思っていま
す。あきらめない心、気づき
協力しあう心、感謝する心を、
競技を通じて養い、社会で役に立つ人になっ
てもらいたいですね」



校長の 日下照方先生
監督の 川瀬秀一先生

チームトークを大切に。
勝ち続けるために一丸となって邁進中!

ハンドボール部
愛知高等学校
第31回援助(高校生)

高校ハンドボール激戦区の愛知県において、何十年と第一線で活躍中。現在の部員数は
三十四名。これまで全国高等学校ハンドボール部選抜大会に23回出場し優勝1回、
準優勝1回、第3位3回、全国高等学校総合体育大会(インターハイ)に13回出場
し準優勝2回、第3位1回という実績を持つ。「常に上を目指すこと」「社会の役に
立つ人間になること」をスローガンに、勉強も部活も両立しながら頑張っている。

大澤亮介君 (キャプテン)
小坂井瞭君 (U19日本代表に選抜)



編・集・後・記

瑞獣の記事を書いている、ふと、以前に京都のお寺に行った時のことを思い出しました。天井に大きな龍が描かれており、見上げると、何かゾワゾワとしたのです。もしかしたら、何か縁起の良いパワーをもらえたからなのでしょうか。と、龍が吉祥動物と聞いて、そう思ってしまう私は単純ですね(笑)。

二〇二二年、笑顔あふれる明るい一年へと、瑞獣達が導いてくれることを願っています。

表・紙・作・品



「生態学」841×1189 mm
コットン / ラムダプリント

神村泰代さん作(第31回助成)

●作者の言葉

2019年より長者町繊維街で、町の方とコットンを育て、これを作品としていました。

「町の中に石でできたモニュメントではなく、コットンの柔らかいモニュメントを建てる」、

そんな現代美術作品です。種から綿に変わるまでの4態を4枚の連作写真としたうちの一点です。

制作年 / 2020



あゆち第91号 ● 2022年1月

発行: 公益財団法人 愛銀教育文化財団
〒460-8678 名古屋市中区栄三丁目14番12号
愛知銀行本店内 ☎(052) 251-3211(代)

<https://www.aichibank.co.jp/company/csr/foundation/>

